



富山大学薬学部カリキュラムマップ（令和7年度以降入学生用）

薬 学科

1年次

教養教育の卒業要件単位を修得するための講義・実習・実技科目を主体とし、専門分野への導入教育も並行して実施するとともに、地域と連携した講義や早期体験学習を行う。

2年次

物理、化学、生物系の基礎科学を主とした講義科目と、基礎科学系及び医療系の基礎薬学実習を実施する。

3年次

生物、薬剤、薬理、衛生、医療系分野を主とした講義科目、及びとやま薬学演習を実施するとともに、地域と連携した講義、演習、インターンシップを実施する。また、卒業研究を開始する。

4年次

医療系分野の講義科目と、臨床実務実習に備えて臨床前実習を実施する。また、卒業研究を継続する。

5年次

薬局・病院における臨床実務実習を実施する。また、卒業研究を継続する。

6年次

卒業研究を主として実施するとともに、基礎薬科学の反復教育とアドバンスト教育を実施する。また、希望者に対して短期海外派遣を行う演習科目を実施する。

専門科目

基盤教育	薬学概論	製薬企業概論	薬学英語Ⅰ	薬学英語Ⅱ	専門英語Ⅰ	専門英語Ⅱ	知的財産概論		薬剤師博士論		基礎薬科学	
	医療学入門	解析学、外国語 情報処理 医療心理学	行動科学	統計学	企業薬剤師育成学	とやま薬学演習	薬学経済					
			富山のくすり学	企業薬剤師インターンシップ								
				薬剤師キャリアデザイン学								
		海外薬学演習Ⅰ、Ⅱ（1-6年次対象）										
物理系薬学	物理化学Ⅰ	物理化学Ⅱ	生物物理化学	構造生物学								
	分析化学	応用分析化学		薬品物理化学								
	物理学	実習（分析化学）		トランスポーター論								
		実習（物理化学Ⅰ）										
		実習（物理化学Ⅱ）										
化学系薬学	基礎有機化学Ⅰ	基礎有機化学Ⅱ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ							
		物理有機化学	機器分析	創薬化学	合成化学							
	基礎化学 化学・物理学実験	実習（有機化学）	実習（分子機能）	ケミカルバイオロジーⅠ	ケミカルバイオロジーⅡ							
				無機化学								
生物系薬学	生命科学 生物学実験	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	免疫・微生物学Ⅱ	先端生命薬学							
		免疫・微生物学Ⅰ	細胞生物学	生体調節科学	分子遺伝動物学							
		生理学	人体機能形態学									
		実習（微生物学）	実習（生化学）									
衛生薬学			放射薬品学	衛生薬学Ⅰ	衛生薬学Ⅱ							
			実習（衛生薬学）	衛生薬学Ⅲ								
和漢薬学		和漢医薬学入門	東洋医学概論	天然医薬資源学	★和漢医薬学演習							
		生薬学	実習（生薬学）	★東西医薬学Ⅰ	★東西医薬学Ⅱ	★和漢医薬学実習						
医療薬学			薬理学Ⅰ	薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ	薬事衛生法規						
			生物薬剤学Ⅰ	生物薬剤学Ⅱ	物理薬剤学	病態薬物治療学Ⅱ						医療統計学
			実習（薬剤学）	●先端創薬学演習	医療薬剤学	病態薬物治療学Ⅲ						
			実習（薬理学）	○脳機能科学概論	病態薬物治療学Ⅰ	病態解析学						
			実習（生物化・製剤学）	薬物動態学								
臨床薬学			実践薬学Ⅰ	実践薬学Ⅱ		病院薬学	疾病医療学					
				臨床倫理学		保険薬局学	臨床前実習Ⅰ					
				臨床データ解析入門			臨床前実習Ⅱ					
薬学研究				研究室配属	卒業研究			中間発表会 ポスター	発表会 口頭			
卓越薬学教育 プログラム			応用製薬コース（●：コース選択者に開講、3-6年次対象の夏期講習）									
			和漢薬コース（★：コース選択者に開講）									
			脳科学コース（○：コース選択者に開講）									

幅広い知識

人文科学・社会科学・自然科学・健康科学の諸分野を学際的に捉え、多様な文化的・歴史的背景を持った地域や社会を理解し、行動する能力を身に付けている。また、「くすり」の観点からの地域や国内外の歴史と現状について理解し、医療、研究、行政に貢献する能力を身に付けている。

専門的学識

基礎科学に裏打ちされた、医薬品等の安全性と有効性に関する深い学識、情報・科学技術に関する専門知識と規範意識、及び薬剤師業務に必要な基本的技能を修得し、和漢薬を含む薬物療法の実践及び公衆衛生の向上に寄与する能力を身に付けている。

問題発見・解決力

健康と疾患に対する深い洞察力を持って、地域や国内外における薬学関連分野の問題や課題に取り組み、学術情報の収集・分析及び実験等の研究を考察し、解決に向けて議論・発表できる能力を身に付けている。

社会貢献力

医療人としての規律、倫理等を守り、患者及び医療に関わる全ての人々の立場を理解しながら、薬剤師として果たすべき役割を認識し、チーム医療・地域保健医療に対して責任ある行動をとる能力を身に付けている。

コミュニケーション能力

他者との積極的な意思疎通を図り、共に学ぶ姿勢を心がけることで、豊かな人間関係を築きながら自己の成長へとつなげることに努め、地域や国内外における異なる考えや言語文化を有する人々の立場を理解し、誠実かつ柔軟なコミュニケーションを取る能力を身に付けている。



富山大学薬学部カリキュラムマップ（令和7年度以降入学生用）

創薬科学科

1年次

教養教育の卒業要件単位を修得するための講義・実習・実技科目を主体とし、専門分野への導入教育も並行して実施する。

2年次

物理、化学、生物系の基礎科学を主とした講義科目と、基礎科学系及び医療系の基礎薬学実習を実施する。後期からは、創薬・和漢薬・脳機能で特徴付けられる各専門コースに分類し、特別専門実習を実施する。

3年次

生物、薬剤、薬理、衛生、医療系分野を主とした講義科目及び総合薬学演習を実施する。また、卒業研究を開始する。

4年次

卒業研究を主として実施する。医療薬学の講義も選択可能である。また、卒業後のキャリア形成を考える講義を行う。

専門科目

基盤教育	薬学概論	製薬企業概論	薬学英語Ⅰ	薬学英語Ⅱ	専門英語Ⅰ	専門英語Ⅱ	薬学経済	
	医療学入門	解析学、外国語情報処理 医療心理学	行動科学 コース概論	統計学 ●富山のくすり学		総合薬学演習 ●製薬企業と創薬	知的財産概論	
海外薬学演習Ⅰ、Ⅱ（1～4年次対象）								
物理系薬学		物理化学Ⅰ	物理化学Ⅱ	生物物理化学	構造生物学			
		分析化学	応用分析化学		薬品物理化学			
		物理学	実習（分析化学） 実習（物理化学Ⅰ） 実習（物理化学Ⅱ）		トランスポーター論			
化学系薬学	基礎有機化学Ⅰ	基礎有機化学Ⅱ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ ●創薬化学			
					合成化学			
		基礎化学 化学・物理学実験	物理有機化学	機器分析	ケミカルバイオロジーⅠ ケミカルバイオロジーⅡ			
			実習（有機化学）	実習（分子機能）	無機化学			
生物系薬学		生命科学 生物学実験	生化学Ⅰ 免疫・微生物学Ⅰ 生理学 実習（微生物学）	生化学Ⅱ 細胞生物学 ○人体機能形態学 実習（生化学）	免疫・微生物学Ⅱ ○生体調節科学	○先端生命薬学 分子遺伝動物学		
衛生薬学				放射薬品学 実習（衛生薬学）	衛生薬学Ⅰ	衛生薬学Ⅱ 衛生薬学Ⅲ		
和漢薬学			和漢医薬学入門 生薬学	★東洋医学概論 実習（生薬学）		★天然医薬資源学 ★東西医薬学Ⅱ	★和漢医薬学演習 ★和漢医薬学実習	
医療薬学				○薬理学Ⅰ 生物薬剤学Ⅰ 実習（薬剤学） ○実習（薬理学） ●実習（生物化・製剤学）	○薬理学Ⅱ 生物薬剤学Ⅱ ●先端創薬学演習 ○脳機能科学概論	○薬理学Ⅲ ●物理薬剤学 医療薬剤学 病態薬物治療学Ⅰ 薬物動態学	病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅲ 病態解析学	
薬学研究				研究室配属	卒業研究			
専門コース					発表会 ポスター			
			（コース概論）	コース分属	（●：専門コース指定科目、先端創薬学演習は3、4年次対象の夏期講習） （★：専門コース指定科目） （○：専門コース指定科目）			

必修科目
選択科目
実習（必須）
自由科目

教養科目

人文科学系	6単位	理系基盤教育系、医療・健康科学系、外国語系、及び情報処理系の科目は、専門教育に基礎教育として連動する。
社会科学系	自由科目	
自然科学系	14単位	
理系基盤教育系	2単位	
医療・健康科学系	選択科目	
総合科目系	6単位	左記単位を含め合計35単位を1年次に修得する。
外国語系	1単位	
保健体育系	2単位	
情報処理系		

学士（薬科学）に求められる能力

幅広い知識

人文科学・社会科学・自然科学・健康科学の諸分野を学際的に捉え、多様な文化的・歴史的背景を持った地域や社会を理解し、行動する能力を身に付けている。

専門的学識

物理学、化学、生物学等に基づき、和漢薬を含む伝統医薬学から先端薬学までの創薬科学に関する幅広い学識、及び情報・科学技術に関する専門知識と規範意識を修得・展開し、医薬品創出を目指した研究・開発に取り組むために必要な創造的思考力と実験技術等を身に付けている。

問題発見・解決力

自然現象に対する強い知的好奇心・探究心を持って薬科学関連分野の課題に取り組み、学術情報の収集・分析及び実験等の研究活動を通して得られる結果を論理的に考察し、解決に向けて議論・発表できる能力を身に付けている。

社会貢献力

医療人としての規律、倫理等を守り、患者及び医療に関わる全ての人々の立場を理解しながら、創薬科学研究者として果たすべき役割を認識し、地域と国際社会に対して責任ある行動をとる能力を身に付けている。

コミュニケーション能力

他者との積極的な意思疎通を図り、共に学ぶ姿勢を心がけることで、豊かな人間関係を築きながら自己の成長へとつなげることに努め、異なる考えや言語文化を有する人々の立場を理解し、誠実かつ柔軟なコミュニケーションをとる能力を身に付けている。